



トレセンの馬房で佇むファンタジステラ(3月23日撮影)



小島友実の あの馬の STORY

ファンタジステラ

馬はファンジカ。そして兄弟には青葉賞を制したハイアーゲーブや、阪急杯を勝つなど、ダイヤフクシカローなど、これまでの馬を「ファンタジステラ」の血統背景からの募集をしていました。そこで、管理が決まりました音無秀孝調教師も、「金兄のダイヤフクシカローを一回、もしくは二回感じた」といって、おまよーいおまよーいな田統馬を預かることで頂く事になり、「光榮である」と語っていました。

そして育成は順調に行き、昨年の1月、小倉のスループロduct上に登場しました。「スタートで出遅れてしまひ、直線で伸びるも着。距離を1600mで伸びた。戦目の阪神戦は着。この戦を見ると、1200mは短い、1600mは長い」という事がしおいだ。騎手から『1400m位の方が多いのか』といふ意見もあって、それで、戦目は1400mで向かうことになりました。

音無調教師が振り返るなり、3

戦目に阪神の第4400mで向かうたび、ファンタジステラは、初勝利を手にしました。

「レース前、アッゼ」騎手は、「前に行つてほし」と指示を出していたのです。が、ゲートを出遅れて後方からのレースになってしましました。でもアッゼ、騎手が内を突いて上がり、直線伸びての勝利。状態も確実に良くなっていましたね」

「そして初勝利をマークしたファンジ

カクトウ。勝つものの課題が見えてきた

事、ある対策が行われました。「ドドードー戦の頃からゲート練習をしましたのですが、3戦目で出遅れた事で、このレース後は約1ヶ月かけて入念にゲート練習を行いました。その成果が出たのが、戦目の京都戦でしたね。まああのスタートからハナに行つての着。ただ逃げじごの戦法は、今後の事を勘べるビターマンは、次のレースでは浜中俊騎手に『逃げなさい、好位で競馬をしてほしい』と叫んでいた。それが、2勝目を挙げた今年の東京戦です。

「3~4番手で流れに乗れて伸びてしまつた。いつも乗つ方がいい馬には、一番合ひやすい馬ですね」

このレースの後、音無厩舎を訪ね、ファンタジステラを現在担当する武田憲明持ち乗り調教助手に普段の様子を聞いてみました。

「おまの手のかからない馬ですね。ただ馬房では遊びたatyipで、かわいがりしてしまおまよ(笑)。今は飼葉も食べやすくなっていますよ」

調教の動きも良くなってきた事で期待が高まる中、マーカレットの向かうたび

ファンタジステラ。しかし、好位からのレースを進めて直線は最内から追い出されるが、伸びを欠いてしまって着。騎乗している浜中騎手は、「終始、内に押さうと通じて出せない状況でした。馬場の悪い内側を走らされたのも影響したようだね」

このレースの後、両前肢に異常が見られた事から検査を行つたところ、両前膝(橈骨遠位端部)剥離骨折が判明。4月13日に骨片の除去手術が行われました。

「手術は無事に終わり、全治6ヶ月の診断です。発症後のレントゲン検査では片方の骨片が大きいかもしれないとお話をしたが、両前とも同じ位の大きさの骨片だったようです。退院後は島上牧場で1ヶ月経過観察を行う予定です」

栗東に取材に行った際、音無調教師は「マーカレットの勝つたあたり、エリックマイルのもつてしまつね」と話していただけに、今回の怪我は本当に残念です。

が、改めて蹄はいの馬に寄せる想いを持つて、話しかけられた。

「マーカレットの前の頃は調教でかなり動けぬものになり、成長を感じていました。それだけに今回の戦線離脱は残念です。でもこれだけの血統馬ですから、怪我を治して直して、秋以降の活躍を目指します。状態が戻れば、1400~1600mのペニヤリストになれと資質を持っています」

考えてみれば、兄のハイアーゲーブは8歳まで中央で走り続けたタフな馬でした。ファンタジステラはまだ3歳。今はじかく怪我を愈してもかく、今後の再び外に出せない状況でした。馬場の悪い内側を走らされたのも影響したようだね」

profile

グリーンチャンネル「トランクマンTV」(毎週金曜 19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。